

社会貢献 沖縄県の公衆衛生向上に取り組む行政への協力

中村 幸志 大学院医学研究科 衛生学・公衆衛生学講座 教授

公衆衛生学は「共同社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学・技術 (Winslow CEA)」です。医学のなかでは社会医学に分類されます。

当講座は、医学部医学科教育においては広く公衆衛生学全般を教授していますが、専門性を持って取り組む研究、大学院教育および社会活動においては生活習慣病予防を柱としています。このため、肥満や多量飲酒などを基盤とする生活習慣病に対処し、健康長寿県の復活を目指す沖縄県内の公衆衛生行政の取り組みと私どもの専門領域が重なり、私どもに参画するようにお声掛けいただいています。

沖縄県保健医療部では、健康長寿課健康推進班が中心となり、県民一人ひとりの主体的な健康づくりを促すとともに、社会全体での総合的な健康づくりを推進するための指標である「健康おきなわ21」の目標の設定と評価に関する総括委員会の委員(兼ねて生活習慣病・がん分野委員会の委員長)、同課がん対策班のがん対策計画を検討する会の委員、国民健康保険課高齢者医療班の若年期からの健康づくりを念頭にいた医療費適正化計画を検討する委員会の委員を拝命しています。このような会合に医師会などの職能団体の代表者、公衆衛生関連組織の代表者などとともに参画し、それぞ

れの立場で沖縄県の公衆衛生向上について考え、県行政に意見を出し合っています。また、データサイエンスの一種といえる疫学の専門家として、沖縄県が推進するデータヘルス計画(健診・医療費データ分析)へ助言しています(図1)。

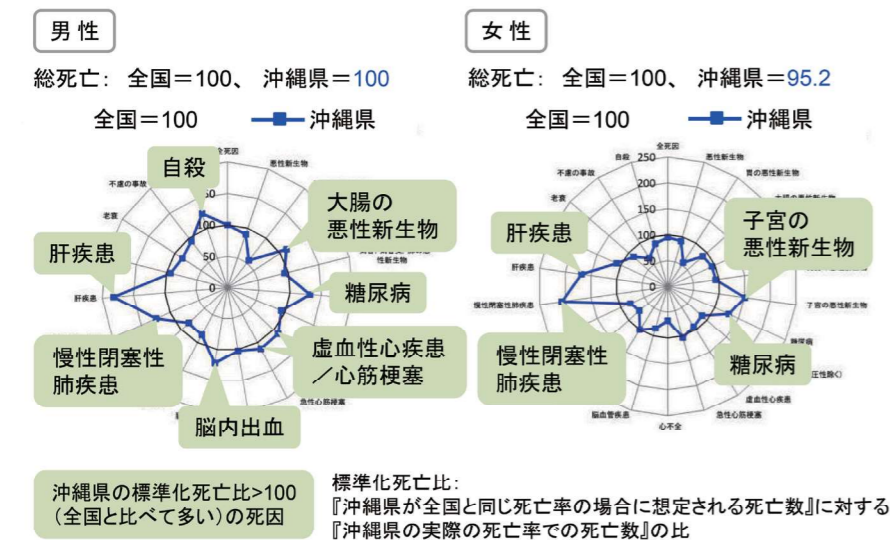
市町村レベルでは、2025年に琉球大学医学部・病院が移転する宜野湾市と連携して住民の健康づくりを促進するために市と意見を交わしたり、2022年に与那国町が実施した住民の食育意識調査と連携して当講座が生活習慣病予防の疫学研究を実施し(図2) [Fukumine Y, et al. Hypertens Res, in press]、データに基づく住民の生活の実態を踏まえて健康づくりの在り方について町と意見を交わしています。

公衆衛生の立場で研究と社会活動の両面で生活習慣病予防に取り組む当講座および医師をご理解いただければ幸いです。



図2. 与那国町での疫学研究 (住民健診の場で大学院生とともに調査を行った様子)

全国と比べた沖縄県の総死亡および原因別死亡の状況[標準化死亡比]



沖縄県 健康づくり支援資料

発行 令和2年8月
発行・編集 沖縄県保健医療部健康長寿課

編集 沖縄県衛生環境研究所企画管理班

指導・助言 琉球大学大学院医学研究科 衛生学・公衆衛生学講座 教授 中村 幸志

沖縄県保健医療部健康長寿課. 健康おきなわ21. <http://www.kenko-okinawa21.jp/090-docs/> (引用改変)

図1. 沖縄県「健康おきなわ21」に関連したデータヘルス計画への貢献

国際交流

小林 潤 大学院医学研究科・医学部 国際交流・地域連携推進委員会 委員長



太平洋島嶼国の学校保健普及に関するWHO西太平洋事務局との共同開催シンポジウム 2022年9月 フィリピン国マニラ首都圏

(医学部全体)

沖縄県は、我が国唯一の亜熱帯気候で島嶼によって形成されており、熱帯病の制圧や島嶼によって形成された地域保健医療の確立に豊富な経験を有しています。これらを踏まえて、医学部設立以来、同様な保健医療課題を持つアジア・太平洋地域への国際協力を展開してきました。医学科では世界的な趨勢である国際水準を満たした医学教育プログラムの

導入にいち早く取り組み、平成29年に国際認証を受けました。これを受けて海外協定校にて、短期の研究実習と臨床実習が行われており、国際水準を満たしグローバルな感覚を持つ医師の育成に注力しています。保健学科では、学部教育においてSDGsや国際保健に関連した科目を設定し、タイ国チェンマイ大学看護学部との学生交流によって異文化理解の教育を長年実施しています。保健学研究科は、琉球大学とJICA 沖縄の連携覚書のもと中核的働きを担っていますが、2021年に正式にJICA 開発大学院連携に登録され多くの留学生を受け入れているほか、保健分野の課題別研修を実施、アジア・太平洋のほか全世界から保健行政・医療の従事者を受け入れています。またJICA 草の根「貧困僻地郡における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクト」を2023年4月に開始し、ラオス国に対する社会貢献活動を再開させました。保健学研究科は現在太平洋地域のアイランドヘルス教育・研究拠点の形成を目指し、アジア・太平洋諸国の研究教育機関との連携事業を強化し、大学院生の派遣による国際共同研究を多数実施しています。

平井 到 保健学科 病態検査学講座 教授

(保健学研究科)

保健学科・保健学研究科で行っている国際交流の一例を示します。

薬剤耐性菌による感染症では抗生物質による治療が困難になります。このような薬剤耐性菌は、国内外を問わず市中や環境、健康な人にまで拡散しており、公衆衛生上の脅威と考えられています。ですから、現在、インドネシア・アイルランガ大学医学部と行っている、薬剤耐性菌に関する国際共同研究においても、インドネシアの調査地の現状を調査する

フィールドワークと、琉球大学で行われる、調査地から分離された薬剤耐性菌の先端的なラボワークを併せて行うことで、課題の解決に迫っています。

これら国際共同研究の中で行われる調査・研究の過程では大学院生の相手国への派遣、相手国研究者の来日、国費留学生の大学院進学など、多くの国際交流の機会があり、保健学科の学部学生や保健学研究科の大学院生にとっても、海外の研究者・学生と多種多様な交流ができる貴重な機会となっています。

